

政治経済学セミナー

(富大経済学部・2010年03月10日)

国際生態補償

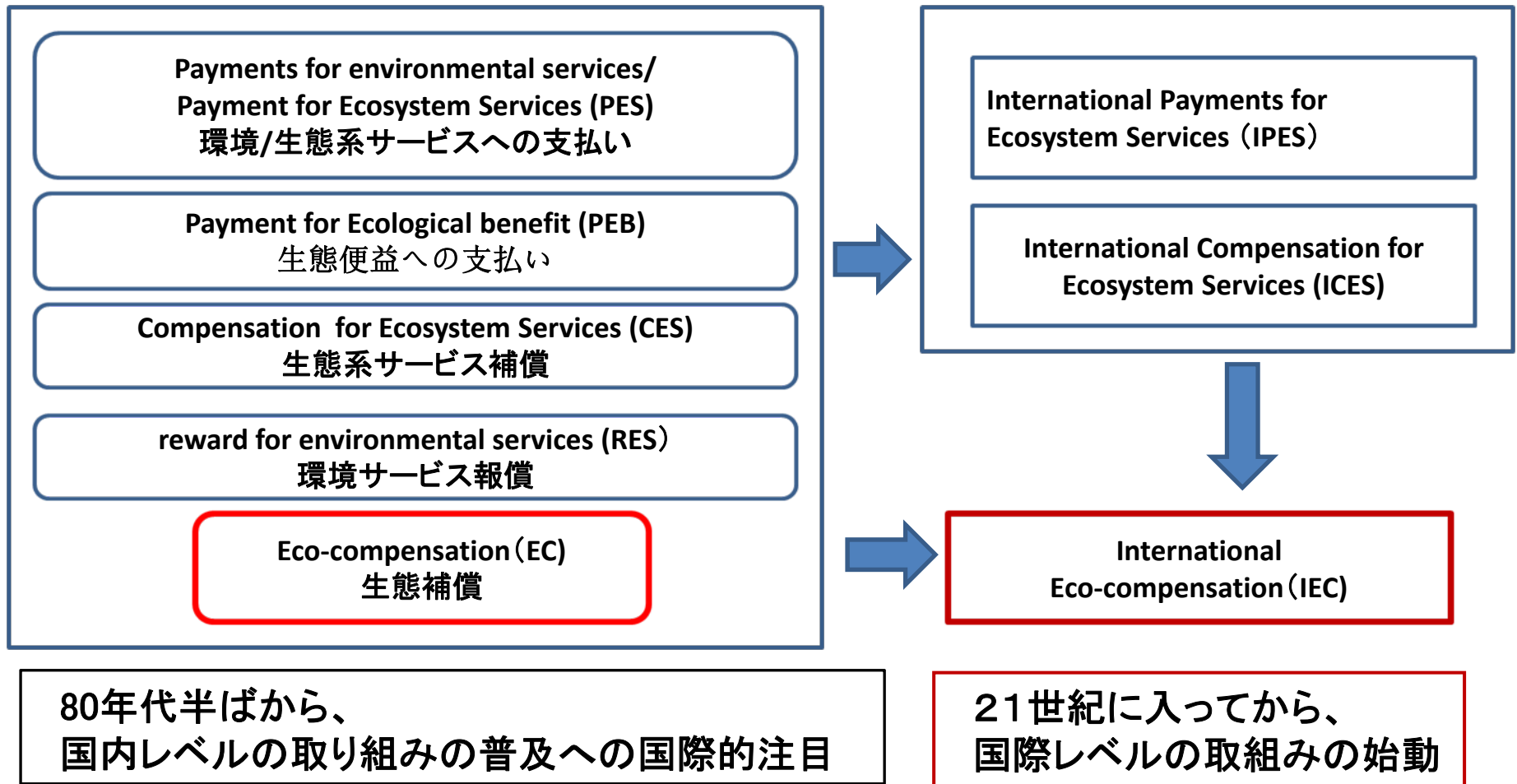
—循環社会論的理論展開の主な論点—

龍 世 祥

LONG Shixiang

University of Toyama

はじめに-1 生態補償の国際的動きと背景



- ①「環境と貧困」悪循環の国際化と現代化からの脱却策、
- ②国際環境公共財の形成と持続性、公平性、効率性を統合する環境政策時代到来
- ③地球環境問題の国際的取組みと利益調整の難航
- ④利益調整の国内経験の蓄積と国際拡張の必要性和可能性
- ⑤UNEPやIUCNなどの国際組織の積極的な推進

はじめに-2 国際生態補償研究の経緯

「補償原則」の概念を提起

(環日本海学会金沢研究大会2006.10)

「地域的共通価値と環境技術移転」

(『環日本海研究』第13号 2007.10)

「国際的生態補償と環境協力について」

(富大東亜共生研究会 2008.3)

「国際的生態補償原理について」

(北東アジア学会・山形研究大会 2008.10)

「国際生態補償について:概念と課題の整理」

(『富大経済論集』55-2 2009.9)

「国際生態補償理論の展開と北東亜への応用:環日本海生態系をキーワードに」

(北東アジア学会誌投稿中)

はじめに-2 国際生態補償研究の課題

アプローチ

循環社会視点→
生態系の多様性・共生→
地域的共通価値→
生態補償の理論→
東北亜への応用

本報告

(これまでの報告を踏みながら、理論的整理)、
I 補償論から見た環境経済学へのアプローチ
II 「国際生態補償」の概念的成立過程
III 生態補償論一般とその新規性
IV 「国際生態補償」の主論点

I 補償論から見た環境経済学への主なアプローチ

アプローチ1 (限界論: コモンズ・マルサス・ミルなど):

限界(自然原理の強調) → エコロジー経済理論
経済余剰の自然還元

アプローチ2 (体制論: マルクス・カッパなど):

公正(人間原理の強調) → 政治経済学的環境論

二部門・三構成の補償、二種類生産間の補償、自然・人間間の物質交換

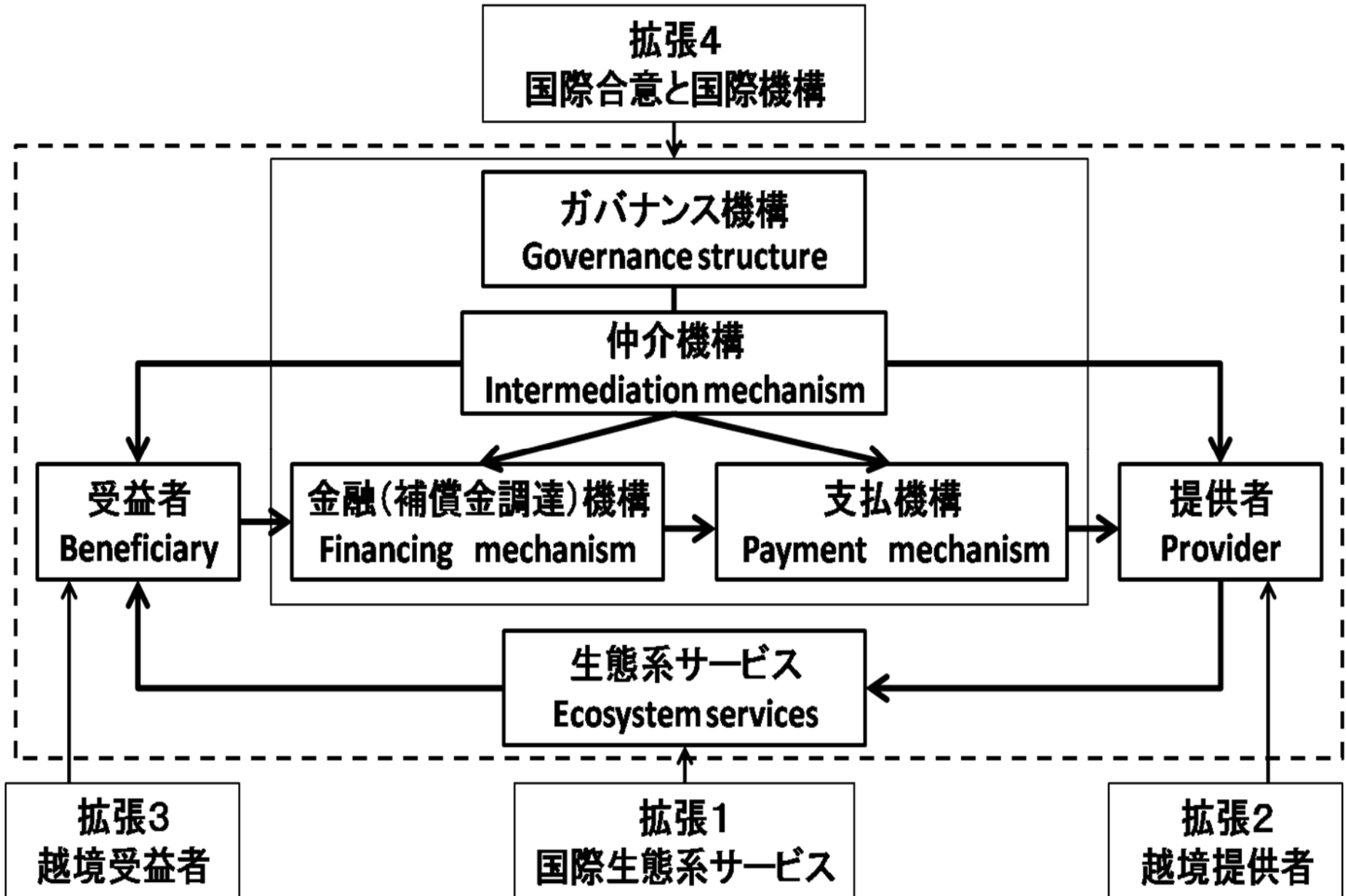
アプローチ3 (厚生論: ピグー、ヒックスなど)

効率(市場原理の強調) → 厚生経済学的環境論

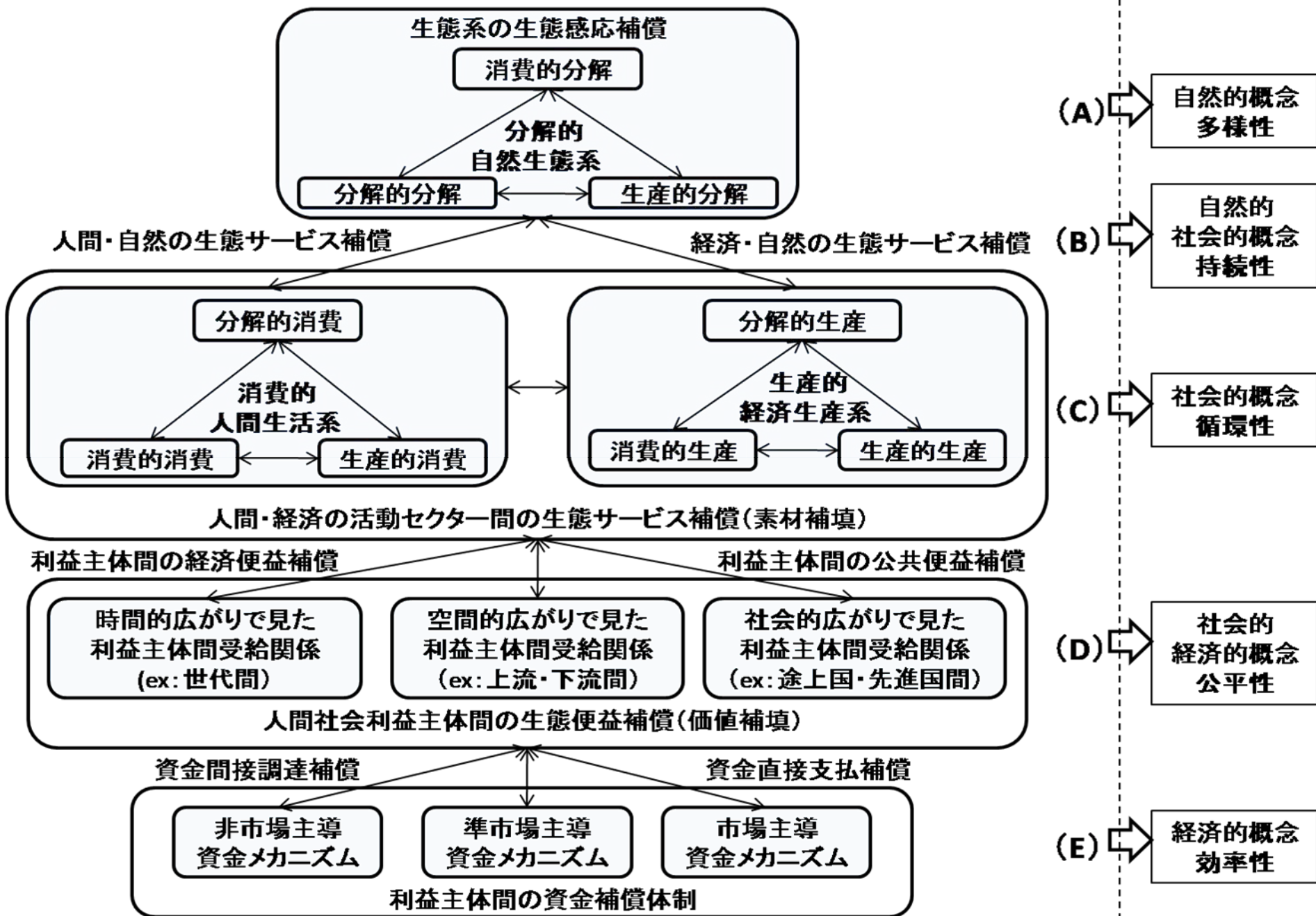
パレート最適・平均、仮想的補償原理、コース的補償

統合的環境経済学へのアプローチ → 循環社会論の視点(人間・経済・自然)

II 「国際生態補償」の概念的成立過程



Ⅲ 生態補償論一般とその新規性

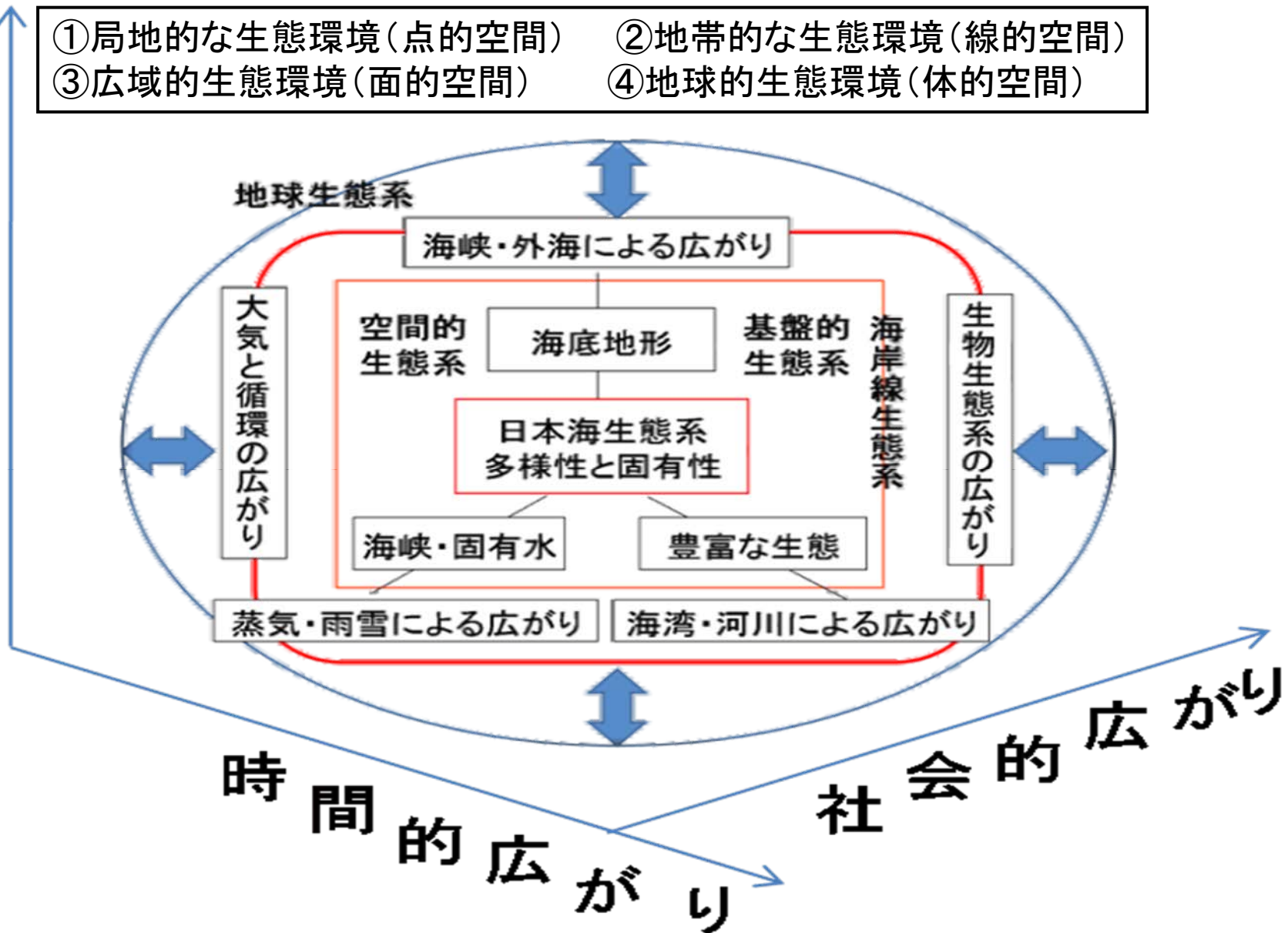


IV 「国際生態補償」の主論点

論点1 国際生態系(IE)と国際地域:IECの出発点

空間的広がり

- ①局地的な生態環境(点的空間)
- ②地帯的な生態環境(線的空間)
- ③広域的生態環境(面的空間)
- ④地球の生態環境(体的空間)



地球生態系

海峽・外海による広がり

大気と循環の広がり

空間的生態系

海底地形

基盤的生態系

海岸線生態系

生物生態系の広がり

日本海生態系
多様性と固有性

海峽・固有水

豊富な生態

蒸気・雨雪による広がり

海湾・河川による広がり

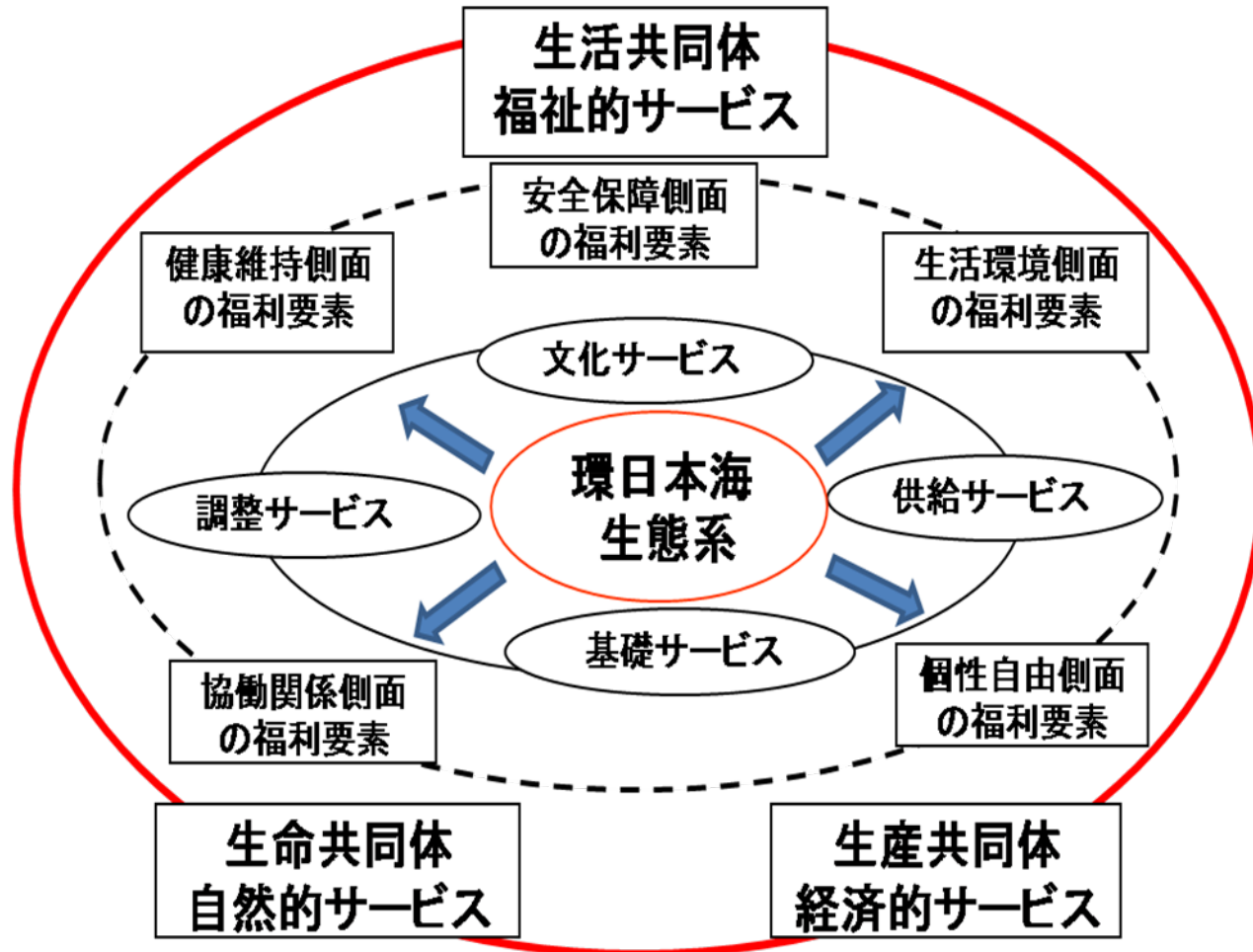
時間的広がり

社会的広がり

IV 「国際生態補償」の主論点

論点2 国際生態系サービス(IES):IECの内容

福祉価値:平和・幸福→平等・信頼・尊重



自然価値:調和・存続→共存・協働・循環

経済価値効率・持続→互惠・公平・依存

IV 「国際生態補償」の主論点

論点3 地球環境問題:IECの対象

空間的広がりによる分類

- ①世界に共有して点在している(点型環境問題)
- ②方向性を持って越境している(線型環境問題)
- ③越境して広域に広がっている(面型環境問題)
- ④地球規模に広がっている(体型環境問題)

時間的広がりによる

- ①自然・災害型環境問題
- ②農村・農業型環境問題
- ③都市・工業型環境問題
- ④地域・地球型環境問題

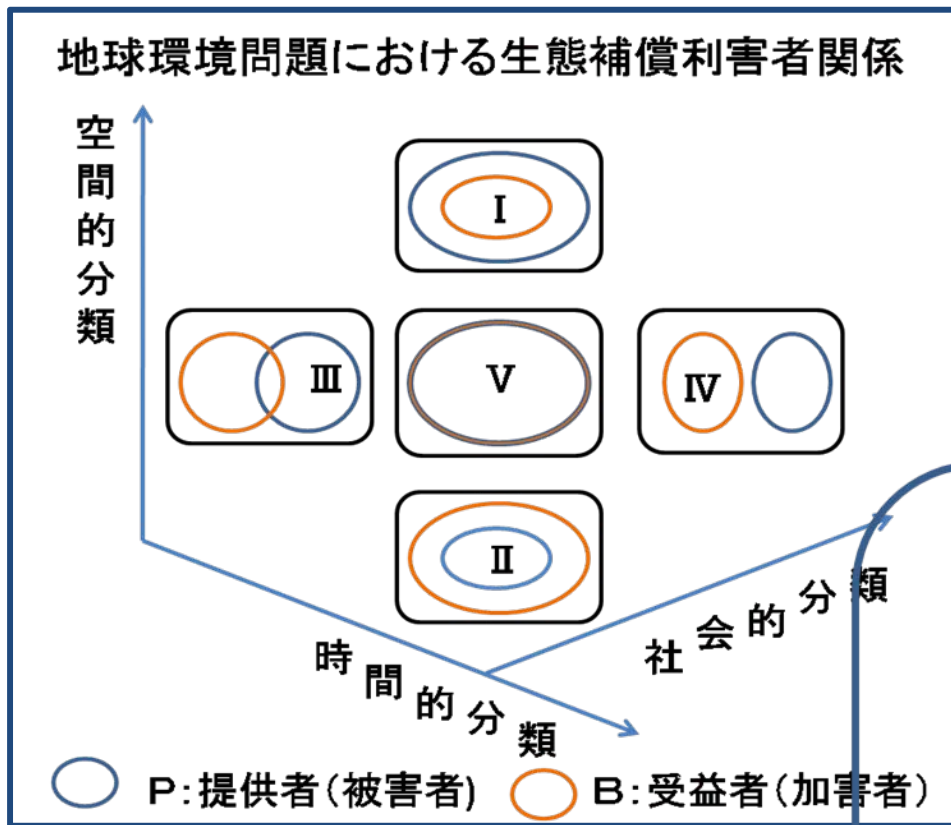
因果関係の世代的分布の視点
因果関係の歴史的蓄積の視点

社会的広がりによる分類

- ①生物的弱者・強者
 - ②生態系の下流・上流
 - ③発展段階的途上・先進
 - ④分業的低次元・高次元
- 責任構造の社会的格差の視点
責任構造の個人・集団の視点

IV 「国際生態補償」の主論点

論点4 IESの社会構造：IECの利益関係



環日本海地域への応用

パターンⅠ： $B \subset P$

ex:酸性雨、黄砂、海洋汚染の場合

パターンⅡ： $B \supset P$

ex:湿地破壊、多様性喪失の場合

パターンⅢ： $\phi \neq B \cap P \neq B, P$

ex:渡り鳥、廃棄物・公害越境の場合

パターンⅣ： $B \cap P = \phi$

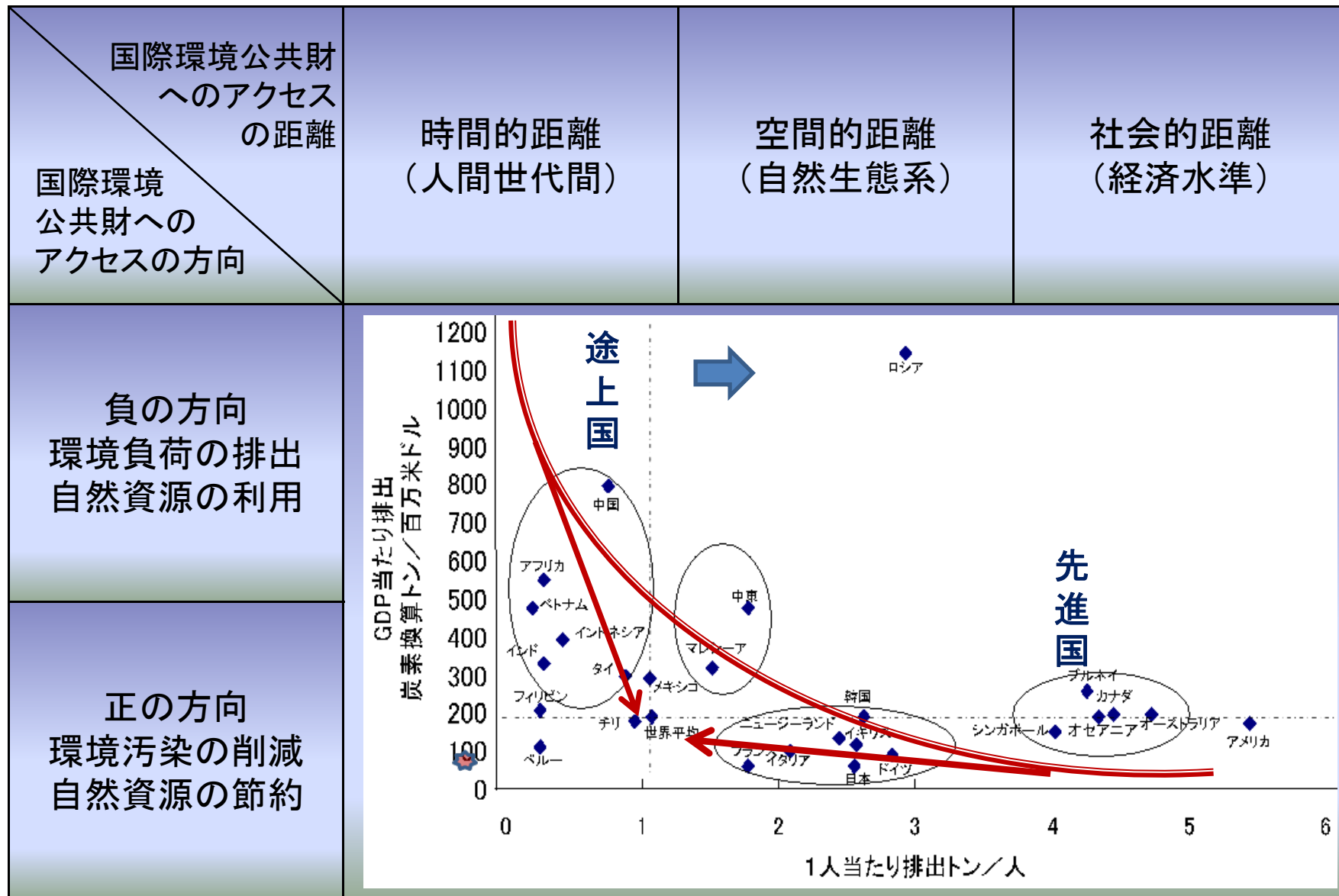
ex:ストック公害、資源枯渇の場合

パターンⅤ： $B = P$

ex:地球規模環境問題への寄与の場合

IV 「国際生態補償」の主論点

論点5 IESの非対称性: IECの根拠



おわりに 「国際生態補償原理」の展開

| 生態系空間分類 地球環境問題分類 (補償原理の展開) | 20世紀70年代 1972年6月 国連人間環境会議 | 20世紀80年代 1984年 ブルントラント委員会 | 20世紀90年代 1992年6月 地球サミットUNCED | 21世紀10年代 2002年9月 地球サミットWSSD |
|--|--|--|---|-----------------------------------|
| 地球生態系 体型地球環境問題 オゾン層破壊、地球 温暖化など (共同-差異原理) | | ウィーン条約(85)モ ントリール議定書 (87) IPCC (88) | 気候変動枠組条約 (COP/CMP) (92) 京都議定書 (97) | コペンハーゲン政治 的合意(09) |
| 地域生態系 面型地球環境問題 酸性雨、砂漠化、黄 砂、海洋汚染など (共同-PPP原理) | 南極条約(59)、砂漠 化防止行動計画(77) | 長距離越境大気汚染 条約(83)越境大気 汚染に関する合意覚 書(80)海洋法に関 する国連条約(82) | 南極条約(91)アルプス 条約(91)北西太平洋地 域海行動計画(94)東ア ジア酸性雨モニタリン グネットワーク(95) | カルパチア条約(06) |
| 地帯生態系 線型地球環境問題 廃棄物越境移動、河 川と流域汚染、渡り 鳥生息減少など (差異-PPP原理) | ライン川汚染防止協 定(63) ライン川汚染防止条 約(76) | 渡り鳥等保護条約及 び協定or環境保護協 定(二国間) | バーゼル条約(89) バーゼル議定書(99) ロッテルダム条約(98) ヘルシンキ条約(92) | |
| 局地生態系 点型地球環境問題 世界遺産保護、多様 性減少、森林破壊、 湿地減少など (共同-協力原理) | 世界遺産条約(72) ワシントン条約(73) ボン条約(79) ラムサール条約(71) | 国際熱帯木材機関 (ITTO) (86) | 生物多様性条約(92) 国際熱帯木材協定(94) | カルタヘナ議定書 (2000) |

おわりに 「国際生態補償原理」の展開

継続研究課題

各論の整理

- 時間軸で分類する世代間の生態補償問題
- 空間軸で分類する地域間の生態補償問題
- 水準軸で分類する利益主体間の生態補償問題
- ガバナンス機構と仲介機構とそのメカニズム
- 地域生態系サービスの価値評価

など